

「アクラス」講演会
2015年2月11日

川口版「21世紀の外国語初級教育の12のテーゼ」

言語・生活研究所 代表
早稲田大学名誉教授(Prof. Emeritus)
川口義一

1. あくまでも「学習者主体」—教えすぎて、学びのジャマをしないこと
2. 教師は「ティーチャー」より「メンター」—見守りつつ、支援する
3. 発音から「発見学習」—”Repeat after me”でなく”Think and find out”
4. 学習者の自己表現を保証—何を言っても、叱らず・笑わず・無視せず
5. 教師も自己開示—導入用の例文にも自分の感情・経験・思想を
6. コミュニケーションはクラスにあり—教室は、外界の練習の場に非ず
7. 「自然な」コミュニケーションを目指す—教室の「文脈」を活かす
8. 表現の多様性を認め、利用する—目標言語だけの使用にこだわらない
9. 生成優先ではなく受容優先—「話す・書く」より「聞く・読む」
10. 理解促進のためにあらゆる手段を—例示・繰り返し・図示・動作
11. 「来るのが楽しい」クラスを—助け合い、知り合うのが当然の教室に
12. ネイティブも目標言語話者の一部—ノン・ネイティブ同士の交流を促進

以 上

目的: 「教室」を「真の(real)コミュニケーション」の場とし、意味のない(meaningless)ロール・プレイや文型練習に踊らされている学習者を解放し、彼らが自分の「声」を取り戻すのを支援すること。